

地方創生まちづくり 特別委員会会議録

令和元年9月12日(木)午後3時00分
小美玉市役所 3階 議会委員会室

小美玉市議会

地方創生まちづくり特別委員会

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 執行部あいさつ

4 協 議

①小美玉市まち・ひと・しごと創生総合戦略改定方針について

②企業誘致について

③議会報告会について

④その他

5 閉 会

出席議員（7名）

3番	木村喜一君	6番	幡谷好文君
7番	谷仲和雄君	9番	岩本好夫君
10番	福島ヤヨヒ君	12番	小川賢治君
20番	野村武勝君		

欠席議員（3名）

17番	戸田見成君	18番	市村文男君（議長・委員外）
19番	荒川一秀君		

付託案件説明のため主席した者

産業経済部長	矢口正信君	企画財政部長	立原伸樹君
企画調整課長	佐々木浩君	商工観光課長	藤枝修二君
地方創生推進係長	中本正樹君	農政課長	大山浩明君

議会事務局職員出席者

書記 富田 成

午後 2時55分 開会

○副委員長（幡谷好文君） 皆さんこんにちは。これより地方創生まちづくり特別委員会を開会いたします。

まず、岩本委員長よりご挨拶をいただきます。

○委員長（岩本好夫君） 改めましてこんにちは。定例会中ということで、地方創生まちづくり特別委員会ご参集賜りまして、まことにありがとうございます。

午前中から総務常任委員会をやっておりまして、中途半端な時間になりましたこと大変申し訳なく思っております。おそらくわたしたちがいただいた4年の任期の中で最後の特別委員会になるのかなと思っております。

改めまして、大和田議員が亡くなられて、大和田議員にはたくさんまちづくりに対していろいろな積極的な意見をいただきました。そういった部分も含めて今回は出席されていませんので、そういう部分も含めてしっかりと審議していきたいと思っております。執行部の皆さまにおかれましてはどうぞよろしくお願いいたします。

今日は、協議事項として3点ほどありますが、1番わたしがメインと思っておりますのが企業誘致についてですね。前委員会の際に委員さんのほうから活発な意見が出ました。それについて執行部のほうからお答えいただきたいということでお題がありますので、今日はその辺のところしっかり聞いてまいりたいと思っております。

それでは、中途半端な時間からになりますが、最後まで皆さんしっかり審議のほどよろしくお願いいたします。

○副委員長（幡谷好文君） 続きまして、執行部よりご挨拶をお願いいたします。

○企画財政部長（立原伸樹君） 皆さま改めましてこんにちは。本来であれば市長がご挨拶を申し上げるところでございますが、本日自民党県議会による台風被害の現地調査におもむいておりまして、委員会開催と急遽重複してしまいましたので、地方創生まちづくり特別委員会の開催にあたりまして執行部を代表いたしましてご挨拶をさせていただきます。

委員の皆さまにおかれましては、昨日までの2日間の決算特別委員会に引き続き、また、本日から各常任委員会開催、また、午後のこの時間からの地方創生まちづくり特別委員会開催まことにお疲れさまでございます。本日の特別委員会に所管する部署といたしまして、小美玉市まち・ひと・しごと創生総合戦略改定方針については企画財政部、また、企業誘致については産業経済部において現在の状況等を詳しくご説明をさせていただきたいと考えております。

また、委員会でのご意見等におきましては、今後の業務遂行においてもおおいに参考とさせていただきますと考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。以上はなはだ簡単ではございますがご挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願ひいたします。

○副委員長（幡谷好文君） ありがとうございます。それでは、協議に移りたいと思います。協議の進行は岩本委員長お願ひします。



①小美玉市まち・ひと・しごと創生総合戦略改定方針について

○委員長（岩本好夫君） それでは、協議事項に入ります。

①小美玉市まち・ひと・しごと創生総合戦略改定方針について執行部から説明をお願ひします。

○企画調整課長（佐々木浩君） それでは、小美玉市まち・ひと・しごと創生総合戦略改定方針についてご説明させていただきます。説明に関しましては、着座にて失礼したいと思います。また、わたし以降の発言等につきましても、着座の説明にてご了承願ひしたいと思います。

それでは、先だって全員協議会の中でもご説明をさせていただいているところでございますが、改めまして重複する部分もございまして、ご説明のほうさせていただきます。

まず、資料1をご用意いただきたいと思います。

資料1の小美玉市まち・ひと・しごと創生総合戦略「ダイヤモンド・シティプロジェクト」改定方針（案）についてご説明をさせていただきます。

資料をおめくりいただきまして、4ページをお開きいただきたいと思います。

1. 改定の趣旨でございますが、国におきまして本年6月に、まち・ひと・しごと創生基本方針2019が閣議決定されまして、地方自治体も切れ目なく地方創生に取り組むことが求められております。本市といたしましては、現行の「ダイヤモンドシティ・プロジェクト」を踏襲しながらも効果検証を行い、実効性、実現性をより充実強化した戦略に改定してまいりたいと考えております。

2. 改定の対象と期間でございますが、人口ビジョンにおきましては、国・県の見直しを踏まえまして、軽微な修正を行い最終年を2060年、中間年を2040年といたしまして、現行と同様にしたいと考えております。総合戦略におきましては、2020年度から2024年度の5か年と予定しております。

次に5ページをご覧いただきたいと思います。

3. 改定にあたっての基本的な視点といたしまして、地方創生をめぐる現状認識といたしましては、人口減少や東京一極集中には現時点でも歯止めがかかっていないと認識しております。地方にとっても厳しい状況が続いているといたしまして、基本的な方向性は変えず6つな新たな視点を加えた地方創生を進めていくと国のほうで方針を決めております。特に下の新たな視点に重点をおいて施策する部分の②でございますが、新しい時代の流れを力にするといたしまして、Society5.0やSDGsなど、新しい時代に対応することが求められております。

続きまして、7ページをお開きいただきたいと思います。

国が示した基本方針などを踏まえまして、総合戦略「ダイヤモンドシティ・プロジェクト」の改定方針といたしましては、基本的には現行の戦略を踏襲いたしまして本市の特色を生かした人口減少対策定住促進の施策展開を図ってまいりたいと考えております。

また、総合計画と総合戦略の関係といたしましては、市の最上位計画である総合計画との整合性を図りまして、若者の定住促進、雇用対策、しごとの創出、結婚支援などの人口減少対策に重点を置いて、実効性、実現性のある戦略としてまいりたいと思っております。総合戦略の名称や、中段の表に記載してあります基本目標とはにつきましては、現戦略のものを踏襲しまして基本的な方向と施策を改定してまいりたいと思っております。

次に、おめくりいただきまして8ページをご覧ください。

現戦略の策定理念こちらを継承いたしまして、国が示す新たな視点を踏まえた小美玉市民のもつ潜在力を生かす、コミュニケーションの飛躍的強化、対象に届く戦略この3つの視点に基づいた戦略を目指してまいりたいと思っております。

次に、9ページをご覧ください。

対象目的を明確に設定いたしました実効性の高い戦略を目指すため新たなマーケティング手法の体験鎖設計を取り入れてまいります。この体験鎖設計は企業等で活用されておまして、課題の発生と解決を長期的に捉え、ばらばらになっている「体験」を横断的に点検し、良い「体験」が鎖となって続くように設計するものでございまして、4つの政策分野の課題解決には対象がどのような体験を持続していけば効果的なのか、行政や民間などの活動を1つの鎖に見立て相乗効果の創出が図れるよう具体的施策の構築を検討してまいりたいと考えております。資料1の説明は以上となります。

次に、資料2の説明に入りたいと思っておりますが、こちらは現在の総合戦略における事業評価を取りまとめたものでございます。

評価基準は、達成度、効果、必要性、緊急性の項目で調査いたしまして事務局で評価を行っ

ております。

ページをおめくりいただきまして、A3横の資料になりますが、こちらは4枚で構成されておりまして、政策分野ごとに表記しているものでございます。この4つの政策分野を統括してご説明のほうをさせていただきたいと思っております。

まず、政策分野1でございますが、恋愛結婚子育て関係の政策になっておりますが、こちらは多くの事業には着手しておりまして、主に同窓会事業や子育て情報アプリ、出産祝い金の支給などを展開してまいりました。しかしながら多彩な合コン・まちコン事業などにおきましては、最近の傾向といたしまして明らかな婚活などをイメージさせるイベントにつきましては、参加をためらう方が非常に多いという現状から、これは全国的な傾向でもございますが、本市が実施したのものについても参加者が少なかったという結果となっております。こういう結果を踏まえまして次期戦略におきましても現代の潮流を把握した事業展開を図ってまいりたいと考えております。

次に、政策分野2の観光や地域の魅力発掘などこちらの関係でございますが、こちらにつきましては、ヨーグルトサミットやインバウンド向けの情報発信、また、市のイメージアップの映像発信など実施しておりまして、特にヨーグルトサミットにおきましては大きな成果を上げることができました。このサミットでは多くの人材が育まれまして今後のシティプロモーションの分野におきましても関係活躍できるような時期戦略においてそういう事業展開を図ってまいりたいと考えております。

次に、政策分野3こちらにつきましては、仕事、企業等の関係でございますが、市民を対象にいたしましたマーケティングスクールなどを開催したことで、その中から企業した方も出てきております。

また、立地産業創造事業といたしましては、民泊経営する方も実際2件出ております。こうした方々は、新たに企業する方や民泊をやりたい方などへの支援を自主的に初められておりまして、自ら掲げるテーマに共感する人たちと独自のコミュニティを広げまして小美玉市の元気を発信しております。また、ヨーグルトサミットを機に都内在住の小美玉出身のデザイナーなど専門知識や技術を持った方々が小美玉市の元気な青年層とつながっておりまして、なかばボランティア的な技術提携をしましてサポートする関係人口となっております。国が重要視しております関係人口や都内の副業人材は、第1期総合戦略の成果として活気あふれる活動を展開しておりまして、小美玉市の青年層に触発されて関わりつつあるという現状であります。元気で夢を持って暮らしている大人の姿を見せることが、子どもたちにとって定住意識を高めるこ

とにつながりますので、第2期の総合戦略におきましても市民や民間による活動の主体性を損なわないよう配慮しながらサポートしてまいりたいと考えております。

そして、最後の政策分野4におきましては、移住・定住の関係でございますが、こちらにおきましては4つの分野、中でも達成度並びに効果の結果が1番高い分野になっております。主な事業といたしまして、移住促進住宅取得補助や、学校地域へのシビックプライドの醸成、メディア戦略としてのマスコミ等の露出など、そして、ヨーグルトストーリーの映像コンクール日本一など大きな結果を残しております。次期戦略につきましては、シビックプライドの醸成事業を強化させまして若年層へのアプローチをさらに強化してまいりたいと考えております。資料2の結果につきましては、以上でございます。

次に、資料3-1並びに3-2をもとに、人口ビジョン（案）についてご説明させていただきます。資料3-2の1ページをお開きいただきたいと思います。

本市の人口ビジョン、総合戦略の策定から4年経過しておりまして、状況の変化に対応し、より一層効果的な施策を進めていく必要がございます。国が示す基本方針といたしましては、2060年の人口の見通しにつきまして、2016年当時の推計値とはそれほど大きく乖離していないという判断から長期ビジョン等の枠組みにつきましては、当初の人口ビジョンの考え方をそのまま維持していくという考えが示されております。本市におきましても、現時点での人口動向分析、将来人口推計などのデータにもとづき、策定時からの変化を把握するとともに、国・県の方針を踏まえた人口ビジョンの検証・見直しを行う予定でございます。

3ページをご覧くださいと思います。

こちらは新たに人口の現状分析をお示しているものでございます。ページ中段にグラフが示されておりますが、こちらの点線の表記が前回策定時の推計値でございます。そして、実線の線こちらが今回新たに推計で出た数字でございます。

まず、総人口でございますが、2000年をピーク、2000年5万3,367人こちらをピークにいたしまして、中間年の2040年におきましては前回の策定時の推計では、4万1,468人こちらが今回の推計では3万9,507人ということで、約2,000人のさらなる減少が進むと推計されております。そして、これに呼応するように、生産年齢人口並びに年少人口共に前回の推計値よりも下がる結果となっております。それとは逆に、老年人口こちらにつきましては、前回の推計値よりもさらに1,000人増加という結果が出てございます。

次に、7ページ、8ページをご覧くださいと思います。

こちらにつきましては、人口動態の状況について分析したものでございます。出生数、死亡

数による自然増減につきましては、マイナスが継続している状況でございます。特に近年は、200人を越える自然減が多くなっているという状況でございます。

ページをおめくりいただきまして、8ページこちらは社会増減の状況をお示ししております。転入、転出による社会増減はプラスになる年も見られるところがございますが、やはり自然減が社会増を上まわっているという状況のため、総人口の減少が続いているという状況でございます。自然減の内訳といたしましては、出生数の減少と死亡数の増加こちらが続いている状況で、自然減の幅が大きくなってきているという状況でございます。自然減の推移につきましては、8ページ中段の表にお示ししております、赤色の点線で囲ったところで大きく乖離している状況が見れるというところがございます。そして、社会増減の推移につきましては、その下の表の表記で赤の点線の丸で表記しているところが転入超過の状況を表記したものでございますが、こちらにつきましては、近年は転出が多い状況が見てとれると結果として出ているところでございます。

次に、年齢別の移動数についてご説明したいと思います。

ページをおめくりいただきまして10ページ、11ページのほうに表記してございます。

年齢別の移動数でございますが、こちらの表記につきましては10ページのほうに記載しております。15歳から64歳の生産年齢人口の減少が最も多くなっているというところで、年齢3区分別純移動数のところのオレンジ色の部分がそうなのですが、こちらがプラスの方向の上の部分に伸びているのが見てわかると思いますが、こちらが移動数のプラスで移動しているということで、その分人口が減少しているということになります。年齢別、男女別に見ますとこちらは隣の11ページのほうにグラフで記載しておりますが、男性では20代後半から30代の転出が多くなっておりまして、その後の年代で転入の増加はございません。女性では10代後半から20代前半の転出が多くみられ、その後の年代で転入の増加は見られないという状況になってございます。

続きまして、婚姻、出生の分析のご説明をしたいと思います。ページをおめくりいただきまして13ページをご覧くださいと思います。

婚姻件数の推移でございますが、前回策定時におきましては2014年の数字が基準となっておりますが、その当時では278件の婚姻件数の実績がございました。今回2017年の数字が表記されておりますが、260件ということで、徐々に減っているという結果が出ております。この折れ線グラフを見ていただきましても、ほぼ横ばいに推移してきているというのが見てとれます。近年この後の説明もございますが、結婚につきましては以前ほどの結婚離れみたいな結

果にはなっていないとこちらとしては分析しているところでございます。

ページをおめくりいただきまして、生涯未婚率についてグラフのほうで表記しております。

この生涯未婚率につきましては、全国と同様に増加傾向にございまして、結婚しない人の割合が増えているのはグラフのほうで見てとれます。

最後に産業別人口についてご説明いたしたいと思いますが、19 ページをお開きいただきたいと思います。

こちらは、全国的な傾向と同様に本市におきましても第1次、第2次産業人口が減少しております。第3次産業人口の増加が続いております。最新の国勢調査こちらは2015年でございますが、こちらにおきましては、第1次産業は11.4%にまで減少しているという結果になっております。特に農業におきましては男女共に60歳以上の就業者が半数を占めておりまして、特に高齢化が著しく顕著に結果として出ている状況でございます。人口ビジョンの内容につきましては説明は以上でございます。

続きまして、資料4をご覧くださいと思います。

こちらは、総合戦略策定に係りまして市民アンケートを実施いたしました。こちら本年6月に実施しておりますが、その主要部分について抜粋してご説明のほうをさせていただきます。

まず、市民アンケートこちら18歳から39歳を対象にアンケートを実施しました。結婚の希望に関しまして18歳から39歳、そして高校生のどちらも結婚を希望するが前回の調査よりも増加している状況でございます。結婚希望年齢こちらに関しましても若年層へシフトしているのが結果として表れております。また、市に対する愛着につきましても数値が増加しておりますが、高校生の結果に関しましては、この市に対する愛着が前回調査よりも減少しているというところで、今後の課題としてこの結果を認識しておりまして、転出への住みやすさに対する回答こちらにつきましては前回の調査よりも11.1ポイントの増加が結果として出ておりまして、ある程度の効果が現れていると感じております。

そして最後に資料5の今後のスケジュールでございます。

一番下の青色の表記のところが会議運営のスケジュールをお示ししているものでございまして、一番下が市議会への報告等のスケジュールでございます。このあと具体的な施策の検討を行います。10月末までに素案をまとめる予定でございます。そして、11月に有識者会議へ行ったのち12月の定例議会におきまして議員の皆さまへ説明をさせていただきます。その後パブリックコメントを経まして翌年3月の定例議会におきまして、総合戦略案を提案させていただく予定でございます。

以上簡単ではございますが、ご説明とさせていただきます。よろしく申し上げます。

○委員長（岩本好夫君） ありがとうございます。ただいま、執行部より説明をいただきました。この件につきまして委員の皆さまからご意見等ございましたら挙手をお願いします。

○20番（野村武勝君） ちょっと聞きたいんですけども、この辺ではつくばみらいとかつくば、守谷が人口増になってというのをお聞きしているところなんですけども、おやっと思ったのが、鹿島、神栖が人口増的なものになっていると思うんですけども、これは子育てに便利だとかいろいろな条件で他市町村よりもいろいろアイデアを使いながら、なんで鹿島、神栖が人口増になっているんだろうかなど。工場があるからというのはわかりますけれど、いろいろな手当てそういうものが主だというのはうる覚えながら覚えているんですけども、そういう点は調査してみてくださいませんか。なんで神栖、鹿島が住みよいというふうに若者があそこへ行っているということで、執行部も回りの市町村ばかり気にしないで例えば給食費は全部いらないよとかそういうのがあるのか、そういうもので人が集まってくれるのならばそういうものを調べてみてください。鹿島、神栖の件でございますけれども、人があそこに何故人口増になっているのかというのを教えていただきたいと思います。

○企画調整課長（佐々木浩君） ただいまの野村議員のご質問なんですけど、事務局といたしましても神栖、鹿島の子育て世帯、そして若者雇用の政策的なものについては、改めて分析しているところは現在ございません。やはり工場の立地とか雇用仕事の面で人口増があるのかなというふうには思っておりましたが、この総合戦略策定の中でどういう施策を鹿島、神栖で行ってどういう成果を得ているのか分析して調査してまいりたいと考えております。

○委員長（岩本好夫君） 野村委員いいですか。

○20番（野村武勝君） いいですよ。

○委員長（岩本好夫君） わたし1つ確認したいことがあるんですけど、資料1の小美玉市まち・ひと・しごと創生総合戦略「ダイヤモンドシティ・プロジェクト」改定方針（案）の（案）という字が取れたら、これはちゃんと冊子になって議会内にも見せるようなものなのかと。

○企画調整課長（佐々木浩君） この改定方針につきましては、関係所管、関係団体等のほうに配布しているところでございますが、改めてこれを冊子にして配るというところまでは考えておりません。最終的に総合戦略の冊子ができたあとに、そのあとの関係資料として含まれることはありますけども、改めてこれを配布するということは考えていないです。

○委員長（岩本好夫君） 委員の皆さんに聞きたいんですけど、資料1の5ページ。俺が知識

ないのかもしれないけど、新しい時代の流れを力にする Society5.0 と SDGs ってみんなわかる。

○20番（野村武勝君） わからない。俺も聞きたいなと思っていただよね。

○委員長（岩本好夫君） わかる人もいると思うんだけど、ただ、おそらくこういうものをつくる時には注釈か何かを入れてもらったほうが誰が見ても議員だからここら辺は勉強してくださいと言われてたそれまでなんだけど、ただ、こういった部分は注釈を1つ入れてもらうともっと理解しやすいし、その辺の気遣いをしていただけると助かります。改めて説明お願いします。

○企画調整課長（佐々木浩君） それでは、Society5.0 ですが、こちらなかなか簡単に説明というのは難しいものでございまして、いま、国で進める施策がかなり先進的なものをどんどん進めているところでございます。かなりデジタル化やネット空間いわばサイバー空間と呼んでいるのですが、こういうサイバー空間とフィジカル空間、要は、仮想空間と現実空間こちらを高度に融合させたシステムこれを構築して経済発展、社会的課題を解決していこうというのがこの Society5.0 というもので、これは Society1 から4までございまして、1が本当に大昔の狩猟時代のことを Society1 と、Society2 がそのあとの農耕社会、Society3 がそのあとの高度経済社会の工業社会のことを Society3 と言います。近年の情報社会を Society4 と言います。そのあとのさらに近未来が Society5.0 とこれを構築していこうという政策がこの Society5.0 と呼ばれているものでございます。

そして、SDGs でございますが、こちらは近年国とか県とかでもだいぶ使っているようでございますが、こちらは国連のサミットの中で採択をされました持続可能な開発のための2030 アジェンダというものが採択されておりました、ここに記載されております2016年から2030年度までの国際的な目標を定めたのがこのSDGsでございます。このSDGsの中身といたしましては、持続可能な世界を実現させるための17の目標を定めておりました、その中に169の詳細な目標、さらなる目標が示されております。そして最終的には地球上の誰一人として取り残さないそういう社会を構築していこうというのがこのSDGsとなっておりますので、詳細な中身についてはかなりボリュームがございますので、こちらは省略させていただきたいと思っております。

○委員長（岩本好夫君） 言われてみるとわたしども聞いたなという記憶はあるんだけど、普段こういう言葉を使わないから全く残らないんだなきつとな。申し訳ありません。ただ、できれば注釈付けてもらって誰が見てもわかりやすいように、関係団体に配布するにしてもそう

いうところは心がけ大事だと思います。

ほか、委員さんのほうからご質問等ありましたらお願いします。

○3番（木村喜一君） 常日頃から小美玉市さんのほうでは、若い職員さんがかなり想像力があって立派だなと関心しているところなんですけども、細かい施策というのはこれ以上考えられないくらい細かくやっていると思うのね普段から。でも、根本的なんだけども結婚して若い人らがどこに住ませてどういう魅力的な感じでどういうふうに思っているのか一番大事なところがすっぽ抜けているような気がして。どうしても不動産の事業なんかやるときにいいまちづくりをしたくてもさ。例えばいまだったら羽鳥駅前なんか例に出させてもらおうと、5、5m以上の道路でないと開発できないよと。やるならば一反歩以下にちょん切ってください。330mに切ってくれるようにできるはずだよ。三角形にしか取れないいい。ところが一杯あるのに美野里時代からもの凄いお金をかけてインフラ整備は終わっているわけでしょ上下水道の。凄いお金をかけてみんなの税金を投入してやって。でも、駅前にはケヤキ通りとイチョウ通りがちょっと広いだけで枝の道というのは1,8mか最高でも4mしかないんです。全部行けないという意味でしょそれでは。絶対にいいまちなんかできないですよ。アイダ設計に支えられて何百区画かはこの10年間はあったけどあれもとっくに終了しているし、あれがあったからこの小美玉市に住んでいるので。もう希望ヶ丘も終わってしまった、駅前もおおトロも処分してしまった、住宅になってしまった、店舗はできない、次に伸ばそうとしても5,5mそんな土地ないでしょ。それこそ小さく小さく魅力のないここは大洋村じゃないんだからそういう民意みたいを助長するようなそういう政策どんなふうに企画調整課のほうと都市建設のほうですり合わせしているのかわからないですけども、早い話が粋綺麗なのができないという意味だよ。だってないんだから。駅前の広い用途地域にすごい面積指定していますけど、そういう5,5mについている5反歩でも1町歩でも3反歩でもいいんだけど会長1個もないよねまともなの。全部そういう特に竹原村というのは岩本さんもよく知っていると思うけど、斜めでどうしようもなくともう既にインフラは整っているんだから。ああいうのを生かして魅力ある地域をつくるためにももう少しこういう細かいことよりもそういうことの方が大事だと思うんだよね。

○20番（野村武勝君） ちょっといいかな。失敗例というのがあるんですよ。あそこを都市計画で負担していただいてきちっと整備したところをつくってとやったんですけど、地元から猛反発をくらったんだよな。あそこやろうと。あれさえ道路をきちっと縦、横きっちりすれば、いま、木村議員が言うようなことはなかったと。ただしどンドン土地が上がったりなんかしてきたから、地主さんのほうも30cmでも嫌だということで坪1万円からだろ。だからどん

どん道路が細いままでやっているというわけだなあれ。我々の失敗作だったんだな。外之内町長のときにあそこ区画整理しようということでずっとやっちゃおうと。そうしとけば最も住民の意向が大事だから。だからいまでも細い9尺道ぐらいの道路しかないんだけど、あれは全体的に住宅区域として区画整理しようということをやったんだけど住んでいた住民が大反対された。吹っ飛んだ経緯があるな。

○3番（木村喜一君） もう少しいいですか。用途地域指定したのは昭和50年頃でしたよね。それからだいぶ年月も経っているかもしれないけど、いまの農家の人たちは相続とかもの凄く苦しんでいるわけですよ。いま、3,000万円ぐらい払う人ざらなんでね。だから売らなければ払えない。どんどんいまラッシュなんで話もくる。開発しようと思って関係各所回ったりもする。せっかくここここわけてあっちからこっちの道に通り抜けできるように6mぐらいつって帰属しようと、いろいろいいまちづくりのために提案する。結局でも常に300坪以下なら自由ですけどこれはちょっととかなんでこうなっちゃうのかなと思ってね。そういうのは都市建設部だけの問題ではないと思うからざっくり鳥瞰的に見れるそういう調整部とかそういう人らの仕事だと思うので、調整部の人たちは逆にいったらば農政だの都市建設部だのいろんな知恵のある人が企画調整とかやるべきだと思うんですがね。そうじゃないといくらあれしたって全然話が進まないんでそういう会議は進めてもらわないと。このままではいくら頑張ってもらっても生かす舞台がないと話にならないでしょ。みんなつまらない畑の端のほうの100坪ぐらい提案してボツボツひとつもまとまらない変な団地ばかりができちゃってあんまりいい感じじゃないよねいまの小美玉市でね。なんでこうなっちゃうのかなといつも。自分の事業になってしまうので恐縮ですけども、変なことやろうと思っているわけじゃない垢抜けた綺麗なほかと引き取らないのをつくろうと思っているんだけど結果的にそれができない。ましてや今年の4月から5.5mそういうのがいつの間にか我々みたいな団体には何の話もなく決まったみたいなんだよね。みんな事業がストップしちゃって今度は新規でもうつukれないわけですよ物が無いから。そういうのは早急に調節してもらわないとどうにもならないような切実な願いというか、その人はわからないでしょうからそんなことはね。もうそういうふうになっちゃっていますよ。悪いけど逆にいったらいい団地はできないよということを申し上げたくて、何とかそういう立場なんだから調節してちょうだいという話なんですけど。すみません。

○委員長（岩本好夫君） ただいまの意見に対して答弁をお願いします。

○企画調整課長（佐々木浩君） 木村議員のただいまのご意見でございますが、重々頭に入れまして、今後まちづくり構想を現在進めているところでございますが、このあと都市計画マ

スタープラン策定等も控えてまいります。その中で関係所管知恵を出しあって様々な検討をしてまいりたいと思っておりますのでご了承願いたいと思います。

○20番（野村武勝君） 木村君には大変まちづくりご苦労さんだと思う。ただしわたしがちょいと思ったことが1つあります。昔は4mに20前後の道路が先行ってぶつからないのが道路じゃなければ駄目だと。わたしも何箇所かありますけれども、当時は道路位置指定して売れた。けれども通り抜けができないでストップのところは絶対市やまちでは受け取らないと。いつの間にかそういう面はいい面もあるんじゃない。わたしがやっている頃は、通り抜けができなければ市で舗装してもらわないと。ところがいまいったらちょっと行ってぽこっとすれ違えば道路位置指定というより市道に受け入れると。何箇所もわたし見ましたけど随分変わったものだなというふうには思っているけども、徐々にいい方向になっていくんじゃないかなと思いますけど素晴らしい。玉里がそうだったもんだからずっと。木村議員もわかるよな。

○3番（木村喜一君） 勿論。

○20番（野村武勝君） 昔は行き止まりのところは市ではもらわないの。道路指定もらえないの。ということが徐々に becoming くるんじゃないかと思うから一生懸命やってまちづくり人口増をやっている木村委員のこともあるので、みんなでいい方向に考えてやったらいいんじゃないかなと。わたしはつくづくもう足を洗いましたので、よろしくお願ひしたいと思います。以上です。

○委員長（岩本好夫君） いま、お二人から出た意見というのは、ある意味非常に重要な問題なのかなと思います。これから人口減少問題を抱えていく中でね。例えば税金が多く入ってくるような自治体とまた違う部分もあるし、あとは小美玉市自体の現状もあるし、そういった部分を含めていろんな方向から意見を聞いて進めていっていただきたいと思います。

○7番（谷仲和雄君） わたくしのほうからは、地方創生という捉え方のところになるかと思いますが、将来推計人口の問題で簡単に言うと資料3-2人口動向分析ですね。2000年が5万3,367人、2040年が4万1,468人の数字になっています。地方創生のわたしくの認識も含めてなんですが、この地方創生に取りかかることによって将来推計人口をいかに保つかというところがこの地方創生の取り組みかなと思っています。なかなか一概に人口増、人口を増やすためにはというところが傾向的に強くなってきている感は個人的には思っています。いかにこの将来推計の数を保つかというところが地方創生の取り組みのところだと認識しておりますので、その中で施策をやらないとこの将来推計の数よりももっと減っちゃいますよというところで何とか頑張るってこの将来推計の数を維持しようというところの考えというところで

思っていますが、市としてはこの地方創生の国の根本的なところですよ。そういうところを国の根本的なところを確認する意味でお聞かせ願えればと思います。

○企画調整課長（佐々木浩君） ただいまの谷仲議員のご質問でございますが、確かに国が示す地方創生の基本的な方向性とかその辺の考えでございますが、この5年で東京一極集中は是正されなかったところと、少子化の歯止めが入り口も見えなかったという状況の中で、なかなかこの地方創生というのは一朝一夕には結果が出ないものだというのはさすがに国のほうも認識していると考えております。現在小美玉市が進めているこの総合戦略もしかりなんですけど、即効性のある事業というのはなかなかないと認識しているところでございます。さきほど木村議員のご指摘もございましたが、まちづくりの観点、そして地方創生の観点この両面から進めていかないとなかなかこの人口減少の減少幅を緩やかにする。先ほど谷仲議員からお話がありましたとおり、緩やかにしていくという部分におきましては、なかなか難しい部分があると認識しておりますので、さすがにこの地方創生の総合戦略だけの事業でこの状況を打開できるかといったら非常に難しいと思いますので、木村議員からのご指摘のあったまちづくりの観点も含めて進めていければと考えておりますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。

○7番（谷仲和雄君） なかなか即効性を求めるとこれは現実的に厳しいところがある中で、この将来推計の予想の推計という数字をいかにそこからかけ離れないというか、数字的に予想よりも減らないようになんとかこの推計をしっかりと維持できるような取り組みの中で、そういうところの位置付けかなという地方創生の考え方ですね。そういうところかなとわたくしも思っております。わたくしの意見を交えさせていただきながら確認させていただきました。以上です。

○委員長（岩本好夫君） そのほかご意見等ございましたら。

○6番（幡谷好文君） わたしのほうからこの「ダイヤモンドシティ・プロジェクト」改定方針（案）、先ほども岩本委員長のほうからお話あった5ページのSDGs、これは先ほど佐々木課長のほうから説明をいただきましたが、これは中身は1番から6番については、後進国についての援助的な推進策なのかと。7番目からの内容で7番目にエネルギーをみんなに、そしてクリーンにという項目がSDGs。この資料の中には残念ながら載っていないんですが、SDGsの7番目にそういった項目がうたってあります。これはわたしはこの内容ですと、信頼できる持続可能かつ近代的なエネルギーのアクセスを確保すると。そういう観点でわたしはこの小美玉市にはバイオマスエネルギーを利用した発電技術というのはもう4年前から提唱していますが、必要であって執行部からの踏襲を受けていますが、さらに研究を進めていただき

たいと何度もお話をしておりまして、なかなか真剣に取り組んでいただけているのかどうかわたしには残念ながらわからないという状況なんです。これはその他のほうでお話しようかなと思ったんですが、前回の委員会の中で民間の事業者さんが補助金申請のためにバイオマス施設の計画をなされていましたが、残念ながら見送ることになりました。これは事業者さんの書類の内容が不利だったということです。おおまかにはとてもいい内容だなというふうに思ったんですが、やはり肝心の数字の部分ですとか、目標値などが曖昧な部分があって、来年度に向けてまた再スタートするということになりましたのをあわせてここでご報告しますが、是非我々もそうですが執行部の皆さんもSDGsの7番目にわたしはまるっきり小美玉市は当てはまっていると思っております。その点について、佐々木課長どのように思いか答弁をお願いします。

○企画調整課長（佐々木浩君） 幡谷議員のご質問バイオマスエネルギーの推進という部分で、こちらはこの事業今回の総合戦略のほうに位置付けるというのはまだ想定のほうはしていなかったのですが、第2次総合戦略の中に位置付けのほうをさせていただいております。その後は市のほうでどのような形で検討しているかというところでございますが、現状まだ動き出しのほうはしていないと認識しております。この酪農の地である小美玉市にとりまして、糞尿等を活用したバイオマスの事業につきましては、確かに未来性があると認識しているところでございますので、早急にいつ動き出しができるというところまで言えるものではないんですけども、今後様々なまちづくりですとか、そういうものを検討していく中で当然このバイオマスの話も出てくるものと認識しておりますので、できるだけ前向きに検討していけるような形を取ればと思います。ただ、わたしのほうでやりますと言えものでもございませぬので、そういう形で認識をしながら様々な計画とか事業を検討する中で進めていければと考えておりますので、ご了承願いたいと思います。

○6番（幡谷好文君） ありがとうございます。これはもう既に踏襲を受けて市では率先してバイオマス事業を構築していくというのはできないと、箱をつくるというのは難しいと至っていますね。これから市の畜産業者さん農家さんであったり、民間の事業者さんだったりが入入をしていく可能性が高くなっていくと思います。そういった中で市としては逆に補助金のどういったものがあるという提案があったりとか、事業の内容について全国的な事業例などを把握していただいて、よりよいエネルギーができるための未来を教えてあげられるようなそういう体制であって欲しいなとわたしは思うところがございます。いま、先だつての台風15号では近くですと千葉県がもの凄い被害にあわれて相当数の戸数が停電の状況にあるという中で、こういう新しいエネルギーがそういった対策にも将来つながればなと思います。電気と水がラ

イフラインが一番重要になってくるかと。テレビを観ても報道を観ても東日本大震災を彷彿させるような、ガソリンスタンドに渋滞で並んで電気が来ないんですからエアコンが付かないわけですよね。車の中で過ごすためにガソリンを求めてという方がほとんどかと思いますが、そういった状況の中新しい動きができるべきだなとこれは将来に向けてですね。これが何かしら地方創生にわたしはつながるのではないかと4年前からお話しているところでありますが、難しいのもわかります。ただ勉強して知識として蓄えておく。それを市のみなさん事業者さんや企業さんにもお話ができるような指導できるような体制づくりはわたしは絶対に必要だと思っておりますので、是非今後ともSDGsにのっかってお願いできればと思っております。こういうこと言ったからSDGsがなくなってしまうということはないと思うんですけど、是非よろしくをお願いします。以上です。

○委員長（岩本好夫君） ほか、委員さんのほうでありますか。

○10番（福島ヤヨヒ君） 全体的な意見と言うんですかね、ここの中には定住意識を高めるとか、20代、30代の方が移住しないようにここに住みつくんだという理念は書いてあるんですけども、現実的にいま行われているのが移住者を迎えるような事業が多いので、やはりここで定住していただく、若者が流出しないんだという戦略がもうちょっと欲しいなという気がしますので、そういうところをもう少し力を入れていただきたいなと思っております。全体的な意見です。

○委員長（岩本好夫君） 要望ですか。

○10番（福島ヤヨヒ君） 要望でいいです。

○委員長（岩本好夫君） ほか、委員さんのほうでありますか。では、わたしのほうからこのダイヤモンドシティ・プロジェクトを策定して様々な事業3年ですかね。3年間やっているとなれば当初は目標があったと思うんです。例えば人口減少にしてもこのぐらいの目標、あるいは婚活にしてもこのぐらいの目標であったりとか、どうですかそれはわたしが見ると人口減少はこの3年間で元々の目標よりもはるかに進んでいるような気がするんですけど、そういったところどのように捉えていますか。

○企画調整課長（佐々木浩君） 岩本委員長のご意見でございますが、確かにこの総合戦略の中でKPIという形で目標値のほうを設定しております。今回資料2でお示しのほうをさせていただいております表の中で達成度というところがございますが、この達成度のところでのこのKPIの目標に達したかどうかという評価になっております。この達成度のところの数字1がこのKPIの助けをしたというところでございますが、どの表も見ていただくとこの1の数

字が少ない結果となっております。元々このK P Iの数値自体が非常に高い設定にしてしまったというところもございますが、1番のところは人口の減少の部分を抑えるという部分と、若年層にだいたひスポットを当てた計画になっておりましたので、結婚ですとか出産この部分におもむきを置いた目標値になっていたかと思いますが、どれもその目標に達していないというのが現状でございますので、この時期計画の策定の中におきましてはこのK P Iの設定は非常に重要だと考えておきまして、数打てば当たるという形の戦略になっておりましたが、次期戦略につきましては説明の中でも実効性、実現性の高いものにしていくと説明をさせていただいておりますので、このK P I目標の設定につきましてもよく吟味、内容精査いたしまして設定のほうをしていきたいと考えております。以上です。

○委員長（岩本好夫君） ありがとうございます。わたしが言いたかったのは、目標に達したか達していなかったのがどうのこうのではなくて、この地方創生例えば人口減少に歯止めをかけるであったりとか、婚活で子どもをもっと、結婚してもらったりとかというところは小美玉市ではじめて手を付けたことなのかと思うんですよねきっと。そうするとやってみて初めてわかる部分ってあると思うんです。3年の経験とデータというのはもの凄く大事だと思うんですよ。そうすると、今度K P I立てるにしてももっと実現性であったりとか、即効性が期待できると思うし、だから3年の実績データをよくよく精査していただいて今後に活かしていただきたいと思うところです。皆さん見ていて毎年ダイヤモンドシティ・プロジェクトの進捗状況わたしらこの委員会で多く受けているんですけど、年々少しずつ変えながら方向性が見えてきたりとか、あとはこの事業は無理なのかなというのが見えてきたりとか、こういった経験だっ重要だと思うんですよ。だからこの皆さまが一生懸命やった3年の成果を十分精査して、そして次に引き継いでいただいてさらなる成果を期待したいと思います。

それと1つ、この地方創生というは地方を創生することですよ。そうすると、いま、日本国中どこでも言われている人口減少問題を言っているんだけど、ただ、これじゃ現実的に歯止めかけてあるいは今度人口が増えていくことが可能かという現実的に考えるとなかなか難しいと思います。であれば地方創生をしていく中で、人口が減少しても地方が生き残れる政策というのも考えようだと思うんだよね。創生していく中で地方が生き残るためには人口が減少してはいけない、定住者がいなければいけないという観念に捉われず、そこはそこで大事にいままでどおりにダイヤモンドシティ・プロジェクトをやっていただいて、地方が生き残るために、地方が創生するために人口が減少しても定住人口が望めなくても、もしかすると施策のやり方ではいい施策が見つかったりとか、なんらかの方法もあるかもしれない。そういったところも

あとがなくなっただけからでは遅いので、少しずつ皆さん3年間やった実績とかをもとにそういった政策にも目を向けていただけるようになれば小美玉市の将来ももう少しテーマが変わるのかなと思います。よろしくをお願いします。

ほか、委員さんでご意見等なければよろしいですか。1時間経ってしまったので10分ぐらい休憩したいと思います。午後4時10分から再開したいと思います。

午後 4時00分 休憩

午後 4時10分 再開



2. 企業誘致について

○委員長（岩本好夫君） それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

2. 企業誘致について執行部より説明をお願いいたします。

○商工観光課長（藤枝修二君） それでは、2. 企業誘致についてご説明をさせていただきますと思います。

本件につきましては冒頭委員長のほうからありましたように、6月の第2回定例会に行われた本委員会において9月の第3回定例会での報告を求められておりました案件についてのご報告となります。

報告案件は、全部で3件とさせていただきます。

まず、1点目が既存企業のフォローアップについて、2点目が小川地区における企業連絡組織等の立ち上げなどについて、3点目が市内適地への企業誘致についてとなります。資料のほうは確定した案件ではなかったためにご用意ができておりませんが、わたしからの説明だけとなります。お許しいただきたいと思います。それぞれいま申し上げました3点について第2回定例会以降の取り組み状況、それから今後の取り組みの内容について報告をさせていただきますと思います。

まず、初めに1点目の既存企業のフォローアップについてでございますが、第2回定例会のときにもご説明させていただきましたが、昨年度の取り組みとしまして小美玉市企業連絡協議会の加盟企業全39社でございます。その他の企業2社の41社について昨年度フォローアップの訪問を実施しております。訪問の内容は市の優遇制度の説明のほか、企業が抱える課題や今後の計画、市への要望などについてお話を伺っております。今年度はこれまで実施してまいりまし

た内容について訪問企業の中で工場等の拡張計画や、関連企業の進出等の動きがありそうな企業、昨年度の実績でそういったお話をいただいた企業がありましたので、そういったところをメインに順次いまま訪問を行っているところでございます。訪問先の都合で後日に先送りとなった企業もありますが、これまで株式会社ダイショー様を初めきちんとお話ができているところが7社の訪問を終えております。この既存企業のフォローアップにつきましては、企業誘致の戦略において大変重要な業務と認識しております。そういうことから引き続き残りの企業連絡協議会会員企業の全企業の訪問を実施するべく現在もスケジュールを調整しながら取り組んでいるところでございます。

また、合わせまして企業連絡会に未加入の企業さんもいらっしゃいます。そちらについても企業連絡会の加入のご案内と合わせてフォローアップを実施しておりまして、こちらも現在進めているところでございます。

続きまして、2点目とさせていただきます小川地区における企業連絡組織の立ち上げ等についてでございますが、これまで市の事業等にご協力をいただいております企業さんを直接訪問しましてこういった企業連絡組織についてのお考えなどを伺ってまいりました。その中で例をあげますと、株式会社水野製菓さんなどは前向きなご意見をいただいております。ただ、別な企業さんでは会社の方針で難しいんだというご意見もいただいているところもございました。今後の取り組みとしましては、小美玉市商工会の内部組織でもあります工業部会へ所属されている企業さん、それらと従業員数なども検討しまして、対象企業を選定した中で企業連絡組織等に関するアンケート調査を実施しながらこういった組織の設立であったり、既存企業への介入等を進めていきたいと思っております。

次に、3点目の市内適地への企業誘致についてでございますが、こちらにつきましては県内における交通網の整備が進む中で、本市におきましても今月21日には一部供用開始となります予定の空港アクセス道路や工事がいま進んでおります岩間インターへの接続道路などがあります。こうした新しい交通網の整備によりまして輸送環境が比較的向上しているところでこうした環境の変化は企業誘致におきましても大変大きなメリットになるものところでも考えております。市の第2次総合計画におきましても、石岡小美玉スマートインターチェンジから空港までのアクセス道路の沿線を空港アクセス沿道エリアとして位置付けまして、総合計画のゾーニングに基づきながら、まちづくり構想の中で企業誘致にかかる適地についても検討されております。商工観光課としまして今年度の取り組みでございますが、広域交通の観点からこの空港アクセス道路と常磐自動車道岩間インターへの接続道路この沿線をターゲットにし

て、比較的開発が容易な地目はそれらがまとまったエリアについて現在調査を進めております。今後はそれらをさらに精査しまして土地の利用について地権者の意向などを確認しながら事務を進めていきたいと考えております。また、企業誘致にあたりましては公共誘致の有効活用なども考えられますが、これらについては来年度完了策定予定の公共施設等個別施設計画策定の中で企業誘致の活用も視野に入れながら検討するよう調整していきたいと思っております。以上簡単であります、これまで取り組んだ企業誘致についての業務の報告とさせていただきます。

○委員長（岩本好夫君） 以上で説明が終わりました。委員の皆さまでご意見等ございましたら挙手をお願いします。

○20番（野村武勝君） 藤枝課長大変ご苦労さまでございます。既存の企業に回ってくれるということでたまたまの例ですけれども、わたくし石岡ゴルフクラブのロッカールームにいたんですけども、その当時大きい声で前町長の伊能さんが来たんですね。大きい声だからすぐわかったよ伊能さんと言ったら、ちょっとということでも人を呼んでくれたんですよ。それがおかめ納豆の会長さん。おかめの会長さんなんで笠間のほうの土地買ったのと話を聞きましたら、どういうことなんだろうというわけなんです。そしたら伊能前町長が何故新しい工場が笠間のほうに行ったんですかと言うんですよ。実はですねうちの息子がいま社長なんですけど、大井川知事が直接来て買ってもらえないだろうかという話があって、直接知事が来たもんですから買っちゃったんですよという話なんです。いやこれ勿体ないなと。わたしがもしあれならばそれを買い戻して小美玉市に別なところをやって空港道路のへりに建てるぐらいの意気込みがあってもいいんじゃないかなと思うけども、向こうを買っちゃったということでございますので。もう1つジャパンミートなんですね。わたしは鹿島の方に行くので圏央道路を通って成田に行っているんですよ。大きい建物があるんだねジャパンミートの建物が。谷田部あたりかな何だこれと。一生懸命これから土地はないんですから藤枝君も割り当てをつくってこんにちとは言ってやっってもらわなければならないかなと。それにはあとでお話しますが、売るものがないといけないと。企業誘致に対してずっと話していいかな。わたしの経験でわたくしは工場誘致には実績あるんですよ。ダイショー食品、明治乳業、明治大和、丸善、プライムというような5社以上は誘致していると思うのですが、1番困るのはダイショー食品と丸善でわたくしは工場をやめたんです。というのは、ダイショー食品でこの土地を買いたまうと言って排水の同意をもらいに歩いたわけです。周りの地権者が法外もない請求をされたんですよ。何億という排水の管を伏せるために。それで苦肉の策でその当時外ノ内町長だったもんですか

ら外ノ内町長どうしても工場が建たないですよと話したら、どういうわけなんだというから排水が大変なんだと。そのとき建設課長に相談をしたと。そしたら道路は町長の管轄だから町長がはんこうを押してくれば道路をやってもいいですよという話を聞いたものですから外ノ内町長に話しました。道路に入れる道路の舗装のお金を1、2,000万円出してくれないかなとそれで解決したんです。その排水の同意をもらうときには大変なんですね。これからやはりここに工場をつくるんだという土地を選定してどこに排水するをやるか。それはやっぱり市のほうでやらなければ工場は来ない。絶対に来ません。それから丸善だったんですけども、これも排水の同意を堅倉の池まで持っていった。それを全部向こうの負担だから。やはりこれでは納豆屋さんがちゃんと排水もみんなできて整地もしているところに行ってしまうのは致し方ないところかなと思うので、そういう面でこれから執行部も我々も創生ということで、結構ですから我々以外に秘密主義でも結構ですからここの周辺はどういう関係の人が持っているの。いま、山持っているからお大臣だなどという人は誰もいません。道路にかかるとなれば喜んで道路に寄付します。今度の空港道路も100%大丈夫だというようにいまがチャンスだと。空港線の空港道路の中に2、3箇所選定してハッキリお願いがあるとすれば、けしてわたしらは工場が来るというのはみんなが願っていることでございます。お金儲けはわたしはやりませんから。だからその中に北中の右側の山十町歩ぐらいある山、あそこへ整地した工場用地をつくったらわたしは100%売れるんじゃないかと思うんですよ。あそこをどういう趣旨だか創生の中でその件も伊能町長が持っているというから伊能町長に話をしたんですよ。そしたら僕持っているけどあそこ二反五畝ぐらいの細い畝入れて誰もあんところ財産にも落ちないですよと伊能町長がお話したことは事実でございますので、あそこを1つ調査して執行部で行ってくれるといいんじゃないのかなと。いま、二反歩や二反歩五畝山持っているからお大臣だとかいいとかという人はいないもんだから、よくそういうところを調査して、それであまり金のかからないように、そして排水をどこへ持っていくか、排水の同意がどうとれるか、そういうものを作ってびしっとしとかなないと企業は来ません。でも、あそこへ企業が十町歩からに大きな企業が来てくれたら小美玉市は少しは潤うんじゃないかと。さっきも言うておりましたけど、人口減と言われて大変だろうと。そのための代わりには工場を2、3いい工場を誘致して、そして財源的に確保しなければ市はできないんじゃないかとこのように思うところでございますので、何か2箇所ぐらい執行部で上から写真見るんじゃなく、上から見てこの辺は山が多いなというところの道路付それをちょと調べて秘密にお願いしたいなと思うところでございます。

○商工観光課長（藤枝修二君） 前回のこの委員会でもそういったご指摘をいただいてお

りまして、内部でも協議していきまして昨年度から取り組んでいたところではあるんですが、いま、野村委員さんがおっしゃられたような形で航空写真をもとに農用地以外の部分でどのぐらいの面積があるのかといったような調査をしております。そういった中で、約500haあるから大きいところは25ぐらいまでですかね、そくぐらいの面積がとれるようなところがあって、まずはそういったところを見て、地権者が何人いるかを見て、まだ、粗案でありましてその先は実際に排水がどうなっているかとかも必要ですし、いま、野村委員さんがおっしゃられたようにそういったところ見ていきながら最終的にはどの辺が適地になるのかといったところを絞り込んでいきたいと思っているところでございます。

○20番（野村武勝君） そうしないと工場来る人いないよ。自分で伐採して造成して排水道路もというところまではいまさっさとできているところにパッと入る。無理だな。そういうわけで何としても2、3社あの空港道路せつかくできたことだし、何社か持ってくる将来のために工場を誘致したらいいんじゃないのそういう点で。あとは学校用地吉影小学校あたり売りに出すほかあんめ工場で。吉影小学校今度合併するんだらう。あそこらなら工場来るんじゃないかなと思うけどな。とにつかく旧美野里では金陽社という会社に部室売ったんだけど、これが成功でね随分金陽社に勤めている人もいるようだけでも、学校敷地というのは排水からみんなできているから買う人はらくなんだよね。いろいろみんなで検討しながら。ただ、この場所はどうかというのをだいたい木村君わかるな。ここはできないここは大丈夫だというのは。だからやっぱりいい場所2、3箇所あると思うから空港線。ただ岩間から来るところは6号国道でメロンロードになっちゃうんだよ。メロンロードというのはのり一緒なんだよな。道路が農面道路というのかな。だから多いんだよな農振地区が。今度の空港道路はそういう補助絡みじゃないからこれを利用しない点はないなと思う。一生懸命みんなでTXが来ればよくなるというけど10年も15年も待たなければ、いま、できるところをいまの子どもたちのためにつくっておかないとまずいんじゃないのかなと思うからよくみんなで検討しましょう。それだけです。

○委員長（岩本好夫君） ありがとうございます。

○3番（木村喜一君） 場所の選定ですとか山林が広がっているところ十町歩ぐらいじゃないと引っかからないところそれは言うまでもなくある程度調査済だと思うんですよね。場所も選定されていると思いますけど、やっぱり第2の問題というのは給排水の問題だとさっき会長さんもおっしゃっていましたが、それでいいと思っても頓挫するケースなんか多くて、だいたい土地改良なんかの権限とかそういうのが強いから進めてみて具体的にならなくちゃいくらふっかけられると言ったらあれですけどわからないんですよねやってみなくちゃ。この企業

が一流でいいからあれすっぺと場所によっては事業主にもらうよりもかけちゃってて、もらい慣れしている人もいますしね。土地改良なんかの人らと足並み揃えて昔みたいな語弊力という言葉がありましたけどもそういう時代じゃないんだし、うちの市長さんが石岡台地のほうもやっているわけなんで、地域的な案件があって工場も周囲には寄っていますよ。がいの程度によって供託金とか企業も違うと思うけども、せっかくそういう石岡台地のほうにも担っているわけだからこういう企業の水を使ってこういう浄化して流す場合は基準も1歩あたりいくらしようとか地域地域の土地改良の人にもわかってもらうとか指針みたいのはつくっていったほうがいいですよ。いま、出たところ勝負に完全になっちゃっているじゃないですか。一生懸命やってこんなところ関わりたくない、こんなところ行きたくない、嫌だということも一杯ありますしね勿体ない話が。そういうのはきちっとチームワークよく決まりよくやりたいと常々思っているんですけど、その辺の調整もできれば少しずつお願いします。要望です。

○委員長（岩本好夫君） ほか、委員さんからありますか。今日執行部からまた説明を受けて前回の定例会から考えると、まだ、本当に初まったばかりのような気がするんだけど、でも現実的に道路がどんどん整備されてくるし、そして、人口減少の歯止めが止まらない。当然企業が誘致できれば雇用が生まれる。雇用が生まれれば当然定住もある。そうすれば若者の地元離れもなくなる。ある意味即効性のあるような施策だと思うんだけど、こういったところも力を入れて。職員さんだから専門的な部分はわからない部分もあったりすると思うんだよね。そういうところは専門家の知恵とか力、人脈をお借りしながら本当に徹底してやっていくべきだと思います。

ほか、委員さんよろしいですか。

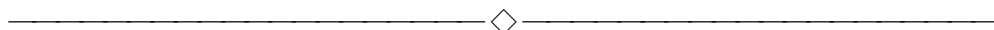
では、またこれも多くの要望が出ましたけど、さらによろしく願いいたします。

○20番（野村武勝君） できたら藤枝君臨時でこの間委員会開いてもらってもみんなで検討していくようにしたらいいんじゃない。時間をおかないで次から次へ年中委員会を開いてもらって。どうなのかというのを伊能町長に聞いたから。こういうあれだから野村さん誰も欲しいという人はいないどと。細長いんだって。本当に細長いんだかなんだかわからないからそういう面があれば誰でも売るよというからな。伊能町長は売りたいんだから。そういう点も大いに聞いているもんだからみんなで検討しながら。ただしこれ以外の人に誰が持ち主だとかこうだというのはいまは情報があれば、この地方創生の委員会の中で話し合ったらいいんじゃないかと。駄目なら逃がしてしまえばいいわけだから。本当にここならできるかできないかわかるからほしい。あと木村委員が言うように、西郷地の黒川地区なんて凄いから。300万

円よこせ流すんならば500万円よこせとそういう点があるから市が入らなきゃ駄目だな。

○委員長（岩本好夫君） では、そういうところでよろしくお願ひします。そうすると、2番の協議まで終わったんですけど、3番項からは議会のほうの案件なので、議会報告会についても執行部の回答もう上がっていますので、これは執行部の回答なんでわたしが意見することではないしこの部分は。

では、執行部の皆さんお疲れさまでした。



3. 議会報告会について

○委員長（岩本好夫君） それでは、3. 議会報告会について皆さんのお手元に地方創生まちづくり特別委員会としての委員会の回答があります。当日の質問と当日の回答、執行部の回答、地方創生まちづくり委員会としての回答です。これはわたしと幡谷副委員長で目を通してあります。執行部の回答を踏まえてわたしらも目を通してありますけど、いちよう皆さんざっと目を通してみてください。お願ひします。

正副委員長に任せていただいて、委員会としての回答なんで間違いないと思うのだけど、それとここでSociety5.0とかSDGsまたこれ出てくるんで、これは注釈付けてもらうように執行部のほうにお願ひしときますので。これがまとまってから活性化委員会のほうで取りまとめるので、それまでに時間ありますからもし何かお気づきの点がありましたら、わたしか事務局のほうに連絡いただければ対応します。富田君さっき言ったように、Society5.0とかSDGsは注釈を中にうまく入れてもらったほうがいいかな。

○書記（富田成君） 16番の下に。

○委員長（岩本好夫君） お願ひします。

では、これはこういう形でよろしいですか。

「異議なし」の声あり



4. その他

○委員長（岩本好夫君） それでは、4. その他に移ります。

その他委員の皆さんから何かありましたら受け承ります。

○12番（小川賢治君） さっき、野村委員からありましたように、企業誘致は市発展になると思うので、そういう意味ではいま担当課のほうでいろんな姿も見えてきたんで、野村委員葉っぱかけているんでみんなで頑張りましょう。以上です。

○委員長（岩本好夫君） では、あと幡谷副委員長のほうからお願いします。

○副委員長（幡谷好文君） 前回の委員会でバイオマスの事業についての補助金申請というお話がありまして、先ほどわたしの話の中で断念したという話しをしてしまいましたが出はされたそうです。市の推薦はいただけなかったということでありましたが、農林基金機構のほうに補助金申請は出したそうです。10月11日にヒヤリングがあるそうなんですけど、駄目もとで出すことによって何が悪いかということがわかるということで、来年度の予算に向けて今回取りあえずチャレンジをしている途中だということでした。訂正してお詫び申し上げます。

○20番（野村武勝君） 酪農のバイオマスにしてもいいんじゃないの。

○副委員長（幡谷好文君） いいですかざっくばらんに話させていただいて。最後の委員会なので。順不同になってしまうんですが、人口減少は地方創生の委員会ですからざっくばらんな話をしますが、人口減少というのは特に先進国の一部、日本以外では数国だけにおこっている状況で、世界規模で見ると現在70億人を超えて2050年には100億人を超えるといわれています。これは70年前ぐらいは30億人はいなかったわけですね人口は。爆発的にここ近年で増えているのがこの日本ではこういう現象がおこっているわけですが、日本でいいますと明治の頃は4,000万人弱ぐらいですか。いま、1億2,000万ちょっとかなと思うのですが、これが30年後の2050年を見ても推移としては9,000万人ですね。明治の頃に戻るとなるとこれが2100年の頃から緩やかな波に満ち潮引き潮ではないですけども、そういう中で世界を見ますとこれだけ人口が爆発していて企業もそうなんですけど、担い手なんかもいまだいぶ外国人労働者が入ってきています。今日法律も交わされてこれからどんどん入ってくると思うのですが、海外の企業なんかにもこれだけグローバル化が進んでいますので、難しい部分は法律的にあると思いますが、そういった勉強も執行部中心にさせていただけたらいいのかと。海外から企業誘致してというそういう時代も来るんじゃないかなとわたしは思うわけでございます。ざっくばらんに余談をさせていただきました。

○20番（野村武勝君） 何かしら手当てはしなければならないと。これは市として人口が減少になるけども、悪いけども減少よりもお金が入るように予算がたてられるように。工場なんか俺はいまが一番いいんじゃないかと。それには飛行場関係が来るところもいいし、多分俺東関道があれば成田が物流で手一杯だから東関道ができれば茨城空港が良くなるんじゃない

いかとそういうものに行くんじゃないというふうな気はしているんだけど。ただ、やっぱり工場だな。工場を市のほうでしっかりとやらなければ駄目だと。この辺は畑あれしたって買う人は綺麗に排水の同意までもらっていないと来ないよ。ダイショー食品、丸善は大変苦勞した。ちょっといくのに何十万とよこさなきゃ駄目だという人がいるからな。

○副委員長（幡谷好文君） オリンピックのプライベートジェットの話なんかはどのぐらいまで進んでいるんですかね。

○20番（野村武勝君） 県会が質問したようだよな。

○委員長（岩本好夫君） あれはビジネスジェットでしょ。

○7番（谷仲和雄君） プライベートジェットは、今朝の茨城新聞に一般質問の欄で県の回答が出ています。実際一般質問するにあたってある程度具体的に進む案件についての詰めた答弁だと思いますので、だいたいその方向で県のほうも取り組むということなので、あとは県と国になってくるのかと新聞に書いてありました。

○副委員長（幡谷好文君） 相当なお金持ちが来るわけですよ。だからさっき木村委員さんが言うように、ビバリーヒルズみたいな住宅地が。相当なお金持ちがびっくりするくらいなの。

○20番（野村武勝君） タイガーウッズは来ないだろうけれども、タイガーウッズも持っているんだからな。

○委員長（岩本好夫君） それでは、わたしらの4年の任期これがおそらく最後の地方創生特別委員会になると思います。2年前で少しメンバーが変わりましたが、4年間わたし委員長やってきました。大変皆さんにはお世話になりました。勉強になりました。さっき執行部のほうにわたしダイヤモンドシティ・プロジェクトが策定されて3年間事業続けてきたということでお話したんですけど、わたしらはダイヤモンドシティ・プロジェクト策定段階から地方創生に関わってきました。ダイヤモンドシティ・プロジェクトが今度策定されればそれを毎年検証しながら一緒になって共有しながら、いろいろな提言をしながら、いろいろな意見を言いながらダイヤモンドシティ・プロジェクト執行部と一緒に進めていきたい気もします。ただ、わたしらは4年という任期なので今年の12月この委員会を解散したらという意見もあったんですけど生き残った部分もあります。ただ、目的を達成すれば特別委員会というのは解散してもいいのかなと思います。ただ、来期もここで生き残る議員さん一杯いると思いますので、その議員さんらでまたこのような特別委員会名前を書かなくても結構です。本当にこういった地方創生初期の段階から策定の段階から携わっている人間がいるということが非常に大事だと思います。また、できれば皆と一緒にまちづくりやっていきたいと思います。4年間お世話になりま

した。ありがとうございます。

○副委員長（幡谷好文君） 以上をもちまして、地方創生まちづくり特別委員会を閉会いたします。ご苦労さまでした。

午後 4時45分 閉会